

安全>品質>生産>コスト ～大切にしたい仕事の優先順位～



愛知製鋼（株）
藤岡 高広

皆さん初めまして、日本品質管理学会の副会長を拝命しております藤岡高広です。JSQCが、産業界での品質向上活動、大学での品質研究の活性化をサポートすることで、我が国の生産性、国際協力を向上するという志で、職を全うしたいと思います。簡単に自己紹介します。トヨタ自動車に入社以来、品質・製造管理業務を担当し、米国、英国での工場立ち上げ等を経験後、堤・高岡工場工場長を経て、愛知製鋼の社長・会長を歴任し、現在に至っております。

公職としては、（一社）中部品質管理協会会長、（一社）中部産業連盟会長に就任しています。JSQC就任後、まだ日が浅い状態ではありますが、現会長の山田先生の強いリーダーシップの下、皆さんが「Q（質）による3つの貢献」を通して、日本の国際競争力をあげるという目標に向かい、マイルストーンを確実に踏んでおられる様子を拝見しております。

現在、次期中計策定に向けた活動を始めたばかりですが、私自身が、45年以上工場経営に携わってきた経験から、皆さんと共有したいことを中心にお話します。それは、仕事における優先順位の考え方です。

昨今、産業界で企業の品質不正が後を絶ちませんが、その根底にあるのが、「安全>品質>生産>コスト」の優先順位を遵守できず、納期達成のため（生産）、利益確保のため（コスト）に、データの改ざん等で、つじつまを合わせ、顧客に多大なご迷惑

をかけると同時に、長年かけて築いてきた信頼を、一瞬で無くしています。

ここで、品質不正における共通点について述べます。左下の図は、不正のトライアングルから見た、不正の原因を整理したものです。顧客と約束した納期に遅れないために、また収益確保を目的として不正に至った背景は、いずれもマネジメントにおける優先順位の遵守欠如に起因するものです。品質管理の原点は、顧客の笑顔のために良質な製品をタイムリーに供給することはもちろんのこと、顧客が本当に困っている課題に対して、自社のDNAをフルに活用して、お役に立つ製品を提供する、いわゆる顧客の価値創造を実現することにあります。

これが出来ない会社は、次第に自然淘汰されていくことを、歴史が証明しています。

この、事実を鑑みたと、マネジメントの間違った判断により、ステークホルダーに多大なご迷惑をかける不正を行うことは、本末転倒でしかありません。

私は45年間、生産に携わってきて、この遵守の大切さを身に沁みて感じてきた一人ですが、現在実践していることを紹介します。

1. トップ自ら考動で示す努力
2. 相互啓発（ダメなものはダメと言える）文化
3. 部下から相談しやすいオープンな環境づくり
4. 問題解決のレベルを上げていく教育、指導
5. 判断する時は、辛い道を選ぶようにする

これらは企業の風土醸成だけでなく、教育面や組織論にも関係してくることで、いずれも現在進行形であり、達成には相当の時間を要します。しかし、トップの認識の正しさが重要であると、肌で感じています。

我々、JSQCが目指す「Q（質）による3つの貢献」というゴールを達成していくためにも、「安全と品質は企業の生命線である」という不変の考えを、今一度、関係するメンバ全員で再認識したいと考えています。

最後に、JSQCの一つ一つの実践が、日本の産学の更なる発展に繋げていくと言う大きな志を目標として、皆さまと頑張っていく所存です、どうぞよろしくご指導お願い致します。

品質不正に見られる共通点

